

施策評価シート

幹事部局

教育庁

施策の名称	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用
施策の目的	全国に誇る島根固有の歴史・文化についての保存・継承と、調査研究を進め、その魅力を県内外に積極的に発信し、歴史・文化を通じた人々の交流を促します。
施策の現状 に対する評価	<p>①(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村や所有者が実施する文化財の保存修理、耐震化等を計画的に支援しているが、今後も、大規模な修理を要する重要文化財建造物等が数多く残っている。 <p>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏イベントの中止などコロナ禍による制約を受けながらも、オンライン講座による情報発信を行うことで、目標を上回る参加者を獲得し、若い世代にも受講いただけた。また、奈良県などと連携した共同研究については、継続して取り組み、研究成果は令和4年度に大阪で展覧会を開催して発信することとしている。 古代出雲歴史博物館・世界遺産センターでの企画展の充実、魅力向上を図るためには、興味・関心が高いテーマを掘り下げる必要がある。コアな歴史ファンだけでなく、幅広い層がどのようなテーマに関心を寄せているかが十分汲み取れていないのが課題である。 <p>③(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県や市町村の調査研究によって文化財個々の価値の顕在化が進みつつある。一方で、文化財の、観光や地域づくりなど地域資源としての活用には課題がある。 県内で7件の日本遺産が認定され、講座等の開催により知名度向上を図ってきたが、日本遺産事業については、認定後6年を経過したことから、認定更新の可否が審査されるよう見直しが行われたため、認定団体へのフォローアップが課題である。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 島根県文化財保存活用大綱で掲げる文化財の保存、継承、活用に地域総がかりで取り組むための方向性について、市町村への周知を図るとともに、学校教育や社会教育での取り組みを進めることとしている。
今後の取組 の方向性	<p>①(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保存状態や防火防災設備の設置状況等を、市町村や所有者と情報共有し、長期的な観点から計画的に修理等が行われるよう支援する。 <p>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインを活用して、歴史ファンを拡大するため、島根の歴史・文化情報をわかりやすく一覧できる新規ポータルサイトを開設し、気軽に楽しめる短編動画などのコンテンツを定期的に更新しながら、SNSとも連動させて発信する。奈良県などと連携した共同研究は研究最終年度であり、研究の成果をとりまとめて、展覧会開催に向けた準備を進める。 研究テーマについては、講座・シンポジウムや企画展のアンケート結果などから、関心の高い分野について仮説を立てた上で、検討の段階から、研究成果をどのように興味深く伝えることができるかを考慮しながら選定する。 <p>③(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村と課題を共有し、市町村、所有者とともに文化財を観光振興や学校教育、社会教育などによる地域づくりに活用するための支援を行う。また文化財保存活用地域計画の策定に取り組む市町村については助言等の支援を行う。 日本遺産の認定更新については、組織整備、具体的戦略や、観光消費額拡大等の民間主導による持続可能な取組が求められており、認定団体の取組を支援していく。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	指定文化財等保護事務	県民、文化財所有者・保持団体	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。	4190	4352	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者・保持団体	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく	95868	128142	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの来訪者	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。	70849	66334	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの来訪者	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。	6791	6792	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。	386950	396630	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民(開発事業者)	開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。	3411	2565	文化財課
7	文化財活用事業	県民	子供から高齢者まで幅広い世代に島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。	3212	4010	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	県民・公共事業者	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。	486057	640440	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県民及び来訪者	出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう	27196	20384	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。	94126	83544	文化財課
11	古代文化研究事業	県内外の人々	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を向上させることを通じ人々の交流を促す。	37648	42411	文化財課
12	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	30574	44027	文化財課
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		指定文化財等保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。		4,190	4,352
			うち一般財源 (千円)	3,385	4,352
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会の開催 ・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく文化財の指定事務 ・文化財愛護意識醸成のための普及啓発事業 ・博物館法に基づく博物館の登録事務、銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務 ・島根県文化財保存活用大綱に基づく文化財の保存・継承・活用の推進 ・文化財保存活用地域計画作成に向けた市町村への支援 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の修理等に関するさまざまな財政支援制度について、市町村だけでなく民間の活動団体にも周知。 ・島根の子どもたちに文化財について学んでもらえるよう、ふるさと教育の学校向けHPIに、文化財情報を提供する。 ・大綱の中で整理した文化財の保存・継承・活用のための諸課題を市町村と共有し、課題解決に向けた意見交換を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	国・県指定文化財の指定件数【当該年度4月～3月】	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	件	単年度 値
		実績値	4.0	0.0						
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>令和2年度は、国および県指定文化財の指定はなかった。</p> <p>指定以外としては、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として松江のホーランエンヤ(松江市)が選択された。</p> <p>また、登録有形文化財として、旧都野津町役場(江津市)、藤代酒店店舗兼主屋、藤代酒店客殿、藤代酒店土蔵、藤代酒店旧酒蔵(江津市)が登録された。</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会委員や、文化財各分野の専門家と連携して県内の文化財の調査研究を進めた結果、R3年度は新たに2件の県指定を見込んでいる。 ・令和2年度末に地域総がかりで文化財を保存・活用していくための指針となる「島根県文化財保存活用大綱」を策定。今年度は、4市町が大綱を勘案して文化財保存活用地域計画の作成を進めており、その支援を行っている。 ・防災の観点での文化財保存について、市町村やヘリテージマネージャー等と連携し、相互支援の体制づくりに着手した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者の中には、指定文化財の将来にわたる維持管理について不安を感じている者がある。 ・寺社等が所有している文化財について、保存管理していくことが難しくなっている事例がある。 ・神楽等の無形民俗文化財の保持団体等は、練習や発表の機会が激減しており、その継承や活用が難しい状況にある。 ・市町村によっては、文化財の調査研究、保存・継承、活用が難しい状況にある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者には、その維持管理のための過重な経済的負担がかかる。 ・人口減少や高齢化等の社会構造の変化により、寺社所有の文化財の保存管理の担い手である檀家や氏子が減少しているところがある。 ・新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止のため、保持団体の練習が減少し、発表の場となるイベントの多くが中止された。 ・市町村によっては、文化財専門職員の不在や職員の専門分野の偏りにより十分な文化財の保存管理が行えないことや、文化財保管施設の不足などの問題が生じている。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・有形文化財や、無形民俗文化財の衣装・道具などを修理するための財政支援制度を周知する。 ・維持管理経費の負担軽減のために、保存環境の整った博物館・美術館等への寄託等の手段があることを、市町村とともに所有者に向けて情報提供及び助言する。 ・「文化財保存活用地域計画」を未作成の市町村に、作成のメリット(文化財修理等の国庫補助率が上乗せされる等)を周知する。 ・市町村が地域計画を作成する場合は、県も計画段階から参画し、大綱の方向性に照らしたものとなるよう助言、支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		歴史遺産保存整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく		95,868	128,142
			うち一般財源 (千円)	86,613	119,599
今年度の取組内容	国及び県指定の文化財のうち、経年による傷みが進行して保存が危ぶまれるものや、技術等の伝承が危ぶまれるものについて、その修理等に要する経費の一部を助成する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村と随時情報共有を図り、計画的に事業を実施できるよう調整を行う。 ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策について市町村へ周知し、対象事業を把握する。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	歴史遺産保存整備の補助要望に対する採択割合【当該年度4月～3月】	目標値		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	%	単年度値
		実績値	86.3	95.2						
		達成率	—	109.5	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		前年度6月の補助要望件数に対する採択件数が占める割合 H30年度事業分 17件/23件(73.9%) R01年度事業分 19件/22件(86.3%) R02年度事業分 20件/21件(95.2%) ほか6月以降の補助要望件数に対する採択数 4件/4件								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の保存修理について、計画的に整備を進めている状況 ・保存修理したことにより、未来への継承が可能となった。修理後は一般向けに公開するなど、地域資源として活用されている。(令和2年度で完了した事業)史跡 鱈淵寺境内整備、県指定 医光寺総門保存修理(継続して実施している事業)重文 旧大社駅本屋保存修理、重有 菅谷たたら山内保存修理、県指定 永明寺保存修理(令和3年度から開始する事業)重文 佐々木家住宅保存修理、重文 樋口威徳残闕保存修理、県指定 櫻井家住宅保存修理
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の個人所有者が保存修理や維持管理等を行う場合、多額の自己負担が生じる。 ・近年中に保存修理を要する文化財が集中している。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存修理はその性質上、材料や工法が特殊なため、一般的な修理と比較して費用が嵩む。 ・経年劣化による建造物の修理等に加え、防火・防災設備の更新時期を迎えるもの、建造物の耐震化工事を要するもの、安全性確保のため史跡の石垣修理を要するもの等がある。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の傷みが進行すると保存修理費用が増大することを鑑み、市町村の協力のもと、随時所有者と関係機関で保存状態を情報共有し、適時に文化庁の専門職員の調査派遣を要請するなど、計画的に修理が行われるよう支援する。 ・「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」(~7年度)の対象事業や、市町村の「国土強靱化地域計画」に基づき実施される文化財の保存・継承のための事業について、文化庁の補助事業を活用し、重点的集中的な支援(随伴補助)を検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		八雲立つ風土記の丘事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。		70,849	66,334
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車による利用促進を図る。 ・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、大・小さまざまなイベントの開催、魅力的な展覧会を開催する。 ・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を確実にやっていくとともに、ガイド養成などによる専門的知識を有した人材の確保など、長期的、計画的な視点に立った運営を行う。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・県・市・指定管理者による情報の共有と役割分担を図る。 ・学校の課外授業に利用しやすくするため、短時間でもよくわかる体験プログラムの検討及び提案を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	八雲立つ風土記の丘展示学習館、山代二子塚土層見学施設、ガイダンス山代の郷の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	人	単年度値
		実績値	23,811.0	14,539.0						
		達成率	—	60.6	—	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数14,539人(前年度比▲9,272人 休館期間4/11～5/31の51日間)、入館者数推計①県内8,428人(対前年比92%)、県外6,111人(対前年度比42%) ②初めての来場(H30 51%、R1 65%、R2 55%)、2～4回(H30 31%、R1 23%、R2 25%)、5回以上(H30 18%、R1 12%、R2 20%) ・企画展開催数(展示学習館(企画展1回、ミニ企画展4回)、ガイダンス山代の郷(ロビー展5回))、普及活動事業(土器製作などの体験教室(296人、前年度比▲147人)、風土記の丘教室(276人、前年度比▲753人)、ヒストリー&アニマルフェスタ(2,411人)などを実施)、Facebook(フォロワー数1,142 前年度比+14.4%)、Youtube(講座視聴数891回) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で出土した動物に関わるミニ企画展と連動したイベントとして子ども向けに移動動物園を誘致。親子で文化財に親しむ機会を提供し、来館者増につながった。 ・文化財を身近に感じてもらえるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、屋外でのイベントを開催した。 ・感染症の影響により来館できない方々に対して、講座の動画公開を開始した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性や資料的価値の高い展示を行い、歴史文化に興味の深い客層が一定数来館されるが、新規入館者や観光入込客などの増加につながらない。 ・史跡出雲国府跡をはじめとする風土記の丘地内を自転車で周遊するコースを提案しているが、利用者が少ない。 ・令和2年度の県外客入館者数は、対前年度比で42%まで減少した。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺施設との一体的な集客の取組みなど、松江市の観光施策との連携が不十分。 ・来館者のターゲット層に応じたコンテンツの用意が不十分。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により県内外を問わず人の移動が激減した。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・風土記の丘周辺施設との一体的な集客につなぐため、松江市観光部局と連携する。また、一般県民を対象とした風土記の丘の認知度調査を検討する。 ・来館者に、風土記の丘地内の史跡や周辺施設の周遊を楽しんでもらえるよう、提案するルート及び古代出雲ストーリーを見直す。 ・学校利用を1つのターゲットとして、授業で活用可能な体験プログラムを用意し、近隣及び周辺市町の学校へ利用を働きかける。 ・今後も講座の動画配信を継続して行き、新型コロナ感染症の収束後の来館者増につなぐ。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古墳の丘古曾志公園事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。		6,791	6,792
			うち一般財源 (千円)	6,765	6,773
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理に努める。 ・費用対効果や長寿命化の観点から、良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努め、事故を誘発するおそれのある設備、不要な投資を招く可能性のある設備の撤去についても検討する。 ・地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。 			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・支障木の伐採箇所、撤去設備の検討			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古墳の丘古曾志公園事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0	0.0						
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減のため、教育機能を持った公園としての位置付けを平成19年度から変更して一般の公園として開放している。 ・指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化が進行している。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化、手洗水栓の自動化、公園案内看板の更新、支障木伐採による眺望改善など、良好な利用環境の確保に努めた。 ・音楽イベントのWEB配信のなかで、収録場所となった古曾志公園のPRを実施した。 ・埋蔵文化財調査センターと連携して「古曾志公園の紹介しまね遺跡ガイド」の実施した。また、周辺自治会、小・中学校への広報活動により、利用促進を図った。
課題分析	① 課題	・建築物や構造物の発錆劣化や機器の故障等、全般的に老朽化が進行
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・開園後25余年を経過 ・経費的な問題で抜本的な修繕が困難
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園内の見回りや施設の保守点検により、利用者の安全確保を図る ・老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果をふまえ今後の対応を検討

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		古代出雲歴史博物館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。		386,950	396,630
今年度の取組内容	島根の歴史文化に関する研究成果の情報発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を理解してもらうため、以下のような業務を実施。 ・学芸業務：県内外の方々に對して、島根の歴史文化を知ってもらうため、県内の出土品や歴史資料の展示公開及び情報発信を実施する。 ・交流普及業務：県内外の方々に對して、島根の歴史・文化を理解してもらい知ってもらうため、各種講座やイベントなど交流・普及事業を実施する。 ・広報・管理業務(指定管理)：県内外の方々に對して、郷土の歴史・文化を発信する重要な拠点施設になることを目的に、指定管理者に委託して、効果的な広報及び適切な維持・管理を実施する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	新型コロナの影響で来館者が平成30年度の40%弱まで激減しているが、一方では修学旅行や遠足、その他学習教育利用など学校関係の利用が増加している状況。来館者の利用分析を踏まえてPR強化・利用促進を図る。				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		240,000.0	180,000.0	200,000.0	240,000.0	240,000.0	人	単年度値
		実績値	170,798.0	94,842.0						
		達成率	—	39.6	—	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・出雲大社「平成の大遷宮」の効果が落ち着いたことで平成30年度の入館者数は約24万人であったが、令和2年度は、コロナ禍のため来館者が激減した。特に4月～5月においては緊急事態宣言が発令されたため2ヶ月間休館している。 ・普及交流事業として博学連携プログラムを実施しており、学校団体で177校、9890名の来館利用があった。 ・学芸業務の成果として企画展を2回実施した。 ・東京国立博物館で特別展「出雲と大和」を開催し、古代出雲歴史博物館のPRを行った。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・相互誘客の取り組みとして出雲大社と歴博を組み合わせたツアーを引き続き実施し、2,869名の参加があった。 ・県外で特別展「出雲と大和」の開催に合わせて改修工事を行い、施設・設備の不具合の解消、館の魅力向上を図った。
課題分析	① 課題 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が大幅に落ち込んでいる。 ・出雲大社及びその周辺の観光拠点からの入り込み客を十分に取り込めていない。 ・県内来館者が十分に取り込めていない。
	② 原因 上記①(課題)が発生している原因	・新型コロナウイルス感染症の影響により、特に県外からの来館者数が激減している。また、外国人観光客もほとんど来館がない。 ・観光客の限られた時間の中で旅行先の選択肢に入っていないと思われる。 ・古代出雲歴史博物館の魅力や価値が十分に伝わっていない。
	③ 方向性 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・コロナ禍の中で、県外からの来館が期待できない状況を踏まえ、当面は、県内の来館者増にシフトし通常のイベント告知に加え、「道の駅」など交通拠点でのPR強化や、フェイスブックを分析してネットユーザーが反応する話題性のある情報発信に努める。 ・県内外の学校やAGTに向けて、教育旅行(修学旅行・遠足・歴史文化教育等での利用)のセールス活動・情報発信の強化。 ・近郊の宿泊施設や観光施設と協力し周辺観光客の立ち寄り率向上を図る。 ・県内外の小中学校から来館が増加している状況を踏まえ、特に県内の児童・生徒に対しては、その地域の文化財により興味を持ってもらうよう、地域に関係ある展示のPRや地域の文化財を紹介するなど、ガイドランスの内容を工夫する。 ・アフターコロナを見据え多言語等インバウンドの受入体制の充実を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民(開発事業者)	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。		3,411	2,565
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡カード作成からGIS作成までの講習会の開催 ・GISの定期的な更新と、市町村と連携した県民及び開発事業者に対する周知 ・事業者や調査を実施した市町村教委との、開発区域内の遺跡の保存方法等に関する取扱いに関する協議の実施 ・埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村教委に対する、専門職員等による技術的指導の実施 ・埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、一定面積以上の土地を開発しようとするものに対する文化財保護法に基づく審査。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡カード作成における市町村と埋蔵文化財調査センターの分担を明確にする ・遺跡データの情報について整理し、最新情報の共有を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	1.0	1.0						
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数【当該年度3月時点】	目標値		11,500.0	11,510.0	11,520.0	11,530.0	11,540.0	件	累計値
		実績値	11,491.0	11,509.0						
		達成率	—	100.1	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・KPI「計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数」とは、周知の埋蔵文化財包蔵地において開発行為を行う場合、法令等の規定に基づき事前の届出が必要とされているが、これを行わずに着工したものの件数。 令和2年度の実績1については、事前の協議・届けを行わずに土地の造成工事が行われたもので、事業者の手続きに関する理解が不足していたこと、また事業者と事業代理人との間での連絡調整不足が原因。再発防止策として、当該教育委員会による事業者への周知徹底、代理人経由事業者あて文書での指導実施等の事務見直しを行った。なお、罰則規定はない。 ・分布調査や市町村による試掘確認調査により、周知の遺跡は令和元年度と比べ18遺跡増加した 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡情報を記載した遺跡カード作成のフローを作成し、市町村と埋蔵文化財調査センターの役割分担を明確にした ・これまでに把握された遺跡の名称及び数を記載した一覧表を、遺跡カードに基づいて最新の情報に更新した
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・GIS上で遺跡情報の更新がされていない場所がある ・遺跡カード上で、過去に把握された遺跡情報とその後の遺跡情報が整理・更新されていないものがあるため、開発区域内の遺跡の保護等に関する取扱い協議に支障をきたす恐れがある
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村と県、それぞれで遺跡カードの管理や情報更新が十分ではない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村と県で情報共有・最新情報への修正を行い、できる限り早くGISに反映できる仕組みを整えることで、遺跡の取扱いに関する協議が適切かつすみやかに進める環境を整える ・開発に伴う遺跡の取扱いフローや遺跡GISの有用性に関し、市町村に対して丁寧に説明することによって、協力が得やすい環境づくりに取り組む ・引き続き、市町村と連携し、その協力を得たうえで、開発事業者に対して埋蔵文化財に関する手続きの周知徹底を図り、無届け工事発生防止に努める

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		文化財活用事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額	
	どのような状態を目指すのか	子供から高齢者まで幅広い世代に鳥根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。		うち一般財源 (千円)	3,212	4,010
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「心に残る文化財子ども塾」: 県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前授業 ・文化財講座『いにしえ倶楽部』: 親子等を対象とした体験活動、一般の方を対象とした座学講座 ・埋蔵文化財調査センター講演会: 一般の方を対象に、発掘調査の成果等を情報発信する講演会 ・まちあるきイベント等: 県内の史跡等の文化財を題材にした「さんいん史跡日和」、発掘調査現場を一般公開する現地説明会 ・風土記の丘レンタサイクル等: 風土記の丘展示学習館及びガイダンス山代の郷での無料レンタサイクル及び音声ガイド(多言語)の貸出 					
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・活用事業の周知・公開にSNS(Facebook、Youtube等)やHP・投げ込み等の多様な媒体を積極的に活用する。 ・イベント内容について、参加者の多様なニーズに応えられるようにテーマや地域バランスを調整する。 					
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベント等の行事開催件数【当該年度4月～3月】	目標値		45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	件	単年度値
		実績値	42.0	30.0						
		達成率	—	66.7	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・「心に残る子ども塾」の実施状況: (平成30年度)応募30校、計画28校、実施28校 (令和元年度)応募28校、計画25校、実施25校 (令和2年度)応募25校、計画25校、実施22校(コロナで3校辞退) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代に文化財に触れてもらうよう、多様な事業展開(出前授業、講座・講演会、街歩きイベント、ガイドブック・パンフレットの作成、レンタサイクル・音声ガイドの貸し出しなど)を行っている。 ・文化財への関心が低い若者世代に向けて、QRコードやYoutube配信などデジタルコンテンツを積極的に活用している。 ・さらに幅広い文化財活用を目指し、音声ガイドの多言語化を進行中。 ・いにしえ倶楽部やまちあるきイベント等については、Facebookや投げ込みなどを行い情報発信に努めている。 ・まちあるきイベントや子ども塾の実施にあたっては、出雲・石見・隠岐の地域バランスが取れるように調整を行っている。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 子供塾の応募が近年やや減少傾向にある。 ② 一般対象の座学講座については、高齢者の参加は多数ある一方で、若者や子育て世代の参加率が伸び悩んでいる。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ① 以前は、埋文C勤務の教員と専門職員が一緒に教材の開発や授業の組み立てを行っていたが、近年では、教員の埋文Cへの異動がなくなったため学校側のニーズが反映されづらくなっている。 ② 若者や子育て世代に関しては、文化財・歴史への興味関心が、他の世代と比べてあまり高くない傾向がある。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 現在、子ども塾の内容について実体験を通して知ってもらう「教員のための文化財活用講座」を、古代出雲歴史博物館と共同で行っている。その中でワークショップを開き、教員視点の意見や要望を取り入れることで、より活用し易い魅力あるコンテンツ開発につなげる。 ② 親子向けの体験活動イベントを行うことで、子育て世代の参加を促し、文化財・歴史へ興味関心を持つきっかけをつくる。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財調査センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・公共事業者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。		486,057	640,440
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の価値を明らかにし、保存や活用を図るために、国土交通省や県(土木部)等が広域的に行う公共事業予定地の埋蔵文化財踏査を実施する ・埋蔵文化財関係資料を有効活用するため、埋蔵文化財調査センター施設・設備、及び収蔵する遺物や図書等の関係資料を、良好な状態で維持管理する ・発掘調査の成果や文化財関連事業に対する理解を深めてもらうために、県民に対し広報等を行う。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関(市町村等)の協力を得つつ、発掘調査体制の整備を図る ・国交省や県土木部と密な連絡調整を図り、効率的な調査計画に基づいた調査を行う。 ・専門職の管理職複数名を調整担当にし、迅速かつ円滑な調整を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	発掘調査が円滑に行われなかった件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0	0.0						
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	<p>KPI「発掘調査が円滑に行われなかった件数」とは、年度内の事業完了が出来ず、事業期間の延長などがされた場合の件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度試掘確認調査予定(江の川改修18箇所、大橋川改修4カ所) ・令和3年度分布調査予定(益田西道路) 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の確認調査の実施により、見込まれる調査量を事前に把握し、円滑な調査の実施に繋げている ・発掘調査の成果については、現地公開やパンフレットの作成・配布に加えて、現地説明会等のオンライン配信なども行い、広く発信に努めている ・現地公開(説明会)は、発掘調査が行われている松江、江津、大田、飯南の4市町(7遺跡)で実施。約320名の参加があった。オンライン公開は、コロナ禍での新たな試みとして松江市内の1遺跡において実施。
課題分析	① 課題	・開発事業の増加に伴う発掘調査に、迅速に対応することが困難となる可能性が生じている
	② 原因	・江の川の河川改修や大橋川の改修事業、山陰自動車道の建設などの大規模開発事業について、設計の変更等に伴う突発的な調査要請などがされる場合がある
	③ 方向性	・国土交通省や土木部など関係機関との情報共有を定期的に行い、開発事業の状況について最新情報の把握し、早い段階での円滑な協議が行われるよう努める

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化の郷「出雲」整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来訪者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう		27,196	20,384
			うち一般財源 (千円)	14,740	11,282
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関が実施する各事業の情報共有、調整を行う 中心的な史跡の一つである山代二子塚について、ストーリーの中での価値や古墳の全体像が理解できるような説明板等の整備。 史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車の貸し出しに際し、周遊ルートを示したマップの提供を同時に行う。 一般の方が理解しやすく興味を持つような内容での調査成果の公表 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	関係機関・関係者による情報の共有と役割分担を図る。個別の史跡の整備については、市町とも連携し設定されたストーリー、歴史探訪ルートと整合性を持たせるストーリーで繋がれた周遊コースを効果的に体感してもらえるよう、電動アシスト自転車等の利用促進				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	文化財活用度(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所)の来訪者数)【当該年度4月～3月】	目標値		638,000.0	319,000.0	479,000.0	638,000.0	638,000.0	人	単年度値
		実績値	637,755.0	367,363.0						
		達成率	—	57.6	—	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 山代二子塚については、追加指定の土地の公有化が完了し、令和3年度に来訪者向けの説明板再整備や園路整備を予定 出雲国府跡については、平成30年度～令和2年度にかけての調査報告書の作成と講演会の実施を計画 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	野外博物館としてのネットワーク化や物語性のある歴史探訪ルートとして活用を図る上で不可欠な、出雲部各市町における個々の史跡の整備や調査による価値の顕在化が進んでいる
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 古代文化の郷「出雲」のゲートウェイとなる風土記の丘地内については、個々の史跡の保存・整備は進みつつあるが、それを繋ぐストーリーやルートの見直し、情報発信が十分でなく人を惹きつける入口の役割を十分に果たしていない。 また、出雲地域の存在する文化財へと繋ぐためのネットワークや情報発信が十分ではない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 調査の進展や史跡整備の進展を踏まえたストーリーの見直しができていない。 ストーリーの見直しや活用を促進する上で必要な、来訪者の理解度・満足度等に関する情報収集が十分でない。 風土記の丘展示学習館に古代出雲のゲートウェイとなる機能が十分に整備されていない。 県、松江市など関係市町、指定管理者など関係機関の連携が十分でない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 県、松江市や出雲市など関係市町、指定管理者など関係機関と、調査や史跡保存・整備の進展に応じたストーリーの見直し、ルートの見直しを行うための検討の場を設定し、古代出雲を体感できるストーリーの構築を進める。 風土記の丘展示学習館が古代出雲のゲートウェイとなるよう、出雲部の史跡等に関するパンフレットの提供など集約的な案内を行う環境を整える 風土記の丘地内では周遊マップの作成などによって、音声ガイドや電動アシスト自転車の利用環境を整え、来訪者の満足度の向上を図るとともに、アンケート調査の実施等により改善点の把握に努める

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。		94,126	83,544
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山遺跡の全容を明らかにし価値を高める基礎調査研究を行い報告書を刊行 広く一般の方に訴求力のあるテーマとして国際交易港温泉津について研究し、わかりやすく伝える企画展をR4年度に開催 世界遺産センターにおいて、調査研究により得られた成果をわかりやすく伝える企画展を定期的開催 大田市が実施する史跡等の保存整備や落石防止等の安全対策を支援 体験メニューを取り入れた県内講座の開催や県外講座のオンライン配信等により、情報発信を強化 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 大田市との共催により、世界遺産センターにおいて、調査研究成果をわかりやすく展示する企画展を定期的開催する。 体験メニューを取り入れた県内講座を開催する。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値
		実績値	8.0	8.0						
		達成率	—	80.0	—	—	—	—	—	%
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値
		実績値	91.2	97.0						
		達成率	—	102.2	—	—	—	—	—	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H30年度32.9%、R元年度33.9%、R2年度34.6%と推移 石見銀山の入込客延べ数は、H30年246,300人、R元年265,300人、R2年171,000人と推移 県外講座(オンライン配信申込者数735人)、世界遺産センター企画展(3/20～4/11 観覧者数2,037人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産センターでの企画展の観覧者のうち、石見銀山遺跡への興味関心が高まった、やや高まったとした割合は93%で認知度が向上している。 県外講座のオンライン配信により参加者数が増加し、より多くの人々に情報が届いている。 大田市が実施する史跡等の保存整備、落石防止等の安全対策は着実に進んでいる。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 従来の調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な視点から進め研究成果を報告書として刊行してきたが、一方で、世界遺産センターの入館者等の一般の方への成果の発信は取組の途上である。 講座のオンライン配信による受講者の拡大は取組の途上である。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定やまとめ方が専門家向けであり、一般の方にわかりやすく発信する取組が不足 講座情報の周知や、これまで受講経験のない方への働きかけが不足
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> R5年度から始める調査研究では、一般の方に興味関心を持ってもらえるテーマは何かという視点から、研究テーマの設定プロセス等を検証し、見直しを実施 世界遺産センターにおいて、調査研究成果をわかりやすく展示する企画展を定期的開催 講座の周知は、SNSほか様々な媒体を活用するとともに、新たな受講者の開拓や石見銀山への来訪につながる企画を進める。 大田市や地元関係機関並びに他部局との連携を進め、史跡等の保存整備の支援を継続するとともに、大田市が主導する日本遺産とタイアップした情報発信を強化

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化研究事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を向上させることを通じ人々の交流を促す。		37,648	42,411
今年度の取組内容	(1)企画運営委員会（古代文化センターの調査研究事業の方向性を審議する有識者会議） (2)古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 (3)古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え3年間の研究、4年目に歴博で企画展を実施 (4)調査研究成果の情報発信事業 ①『古代文化研究』②『しまねの古代文化』③テーマ研究報告書などの刊行、および『古代文化研究』の電子公開				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	歴史文化への関心を幅広い方々にもってもらえるよう『古代文化研究』、『しまねの古代文化』など刊行物の電子公開を計画的に進めていく。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	古代文化研究事業の成果として「古代文化研究」に掲載された論文数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	件	単年度 値
		実績値	10.0	10.0						
		達成率	—	100.0	—	—	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 基礎研究については、島根の歴史文化遺産について体系的な研究を行い、学術的基盤を構築しながら、テーマ研究につなげている。 テーマ研究については、研究報告書の刊行及び古代出雲歴史博物館での企画展の実施により、研究成果を公開している。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	調査研究の成果は、『古代文化研究』やテーマ研究報告書として刊行している。これを基に、島根の歴史・文化をより魅力のあるものに磨き上げ、シンポジウム・講座を通して、県内外の歴史ファンに向けた情報発信に活用してきた。受講者へのアンケート結果では、「この講座を知人に薦められますか」という設問に対し、7以上の評価(10段階 1低～10高)が全体の80%を超える高評価を得ている。講座・シンポジウムの参加者・視聴者は目標を達成しており、歴史文化への関心の高まりが感じられる。	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	講座・シンポジウムの参加者・視聴者については、オンライン配信の効果もあり増加の傾向にはある。一方、古代出雲歴史博物館企画展の来館者は、コロナ禍の影響もあるが、大きな伸びはみられない。講座・シンポジウム、博物館企画展により多くの方々に訪れて頂くためには、歴史ファンの興味・関心が高いテーマを取り上げて研究を進める必要がある。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	講座・シンポジウムや博物館企画展に繋がる研究のテーマ選定にあたって、歴史ファンの多くがどのようなテーマに高い関心を寄せているのかが、十分にくみ取れていない。 ・進行中の研究について、歴史ファンの興味を喚起するような情報発信が少ない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	講座・シンポジウム、企画展などの際に行っているアンケートの結果を活かして、歴史ファンの興味・関心が高い分野を把握し、これを考慮しながら研究テーマを選定する。 ・研究途中の段階であっても、例えば新しい発見があった際に、その内容や調査の過程について、ホームページなどを通しその過程を発信することで、より歴史文化の魅力をわかりやすく伝えていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		30,574	44,027
今年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座+オンライン ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座(シンポジウム) (2) 県外における情報発信(講座、シンポジウム) ①古代出雲文化シンポジウム ②日本遺産講座 (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直した点	全ての講座・シンポジウムについてオンライン配信を行う。ホームページの構成・体裁をリニューアルする。親しみやすいコンテンツを新たに加える。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0						
		達成率	—	116.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>・新型コロナウイルス感染症の国内における状況を考慮し、古代歴史文化賞をはじめ古代出雲文化シンポジウムや東京講座の開催が中止となったが、松江講座や隠岐講座等にオンライン配信を導入したことで、令和2年度の講座・シンポジウム等への参加人数は目標値を超え800名増となった。</p> <p>・観光振興課及び大阪事務所と連携し、大阪でしまねの歴史文化をテーマとした島根学講座を開催した。(2回 計131名参加)</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、東京開催の大規模イベント等の一部中止などを余儀なくされている。県内で開催する講座については、感染対策に万全を期すため定員を50%に制限したが、オンライン配信を積極的に導入した。</p> <p>・講座のオンライン導入によって、全国どこからでも受講していただけるようになり、また、年齢的にも、より若い世代に広がるなど、あらたな受講者を獲得できた。その結果として年度当初に設定した目標数以上の参加者、視聴者を獲得した。あわせて、イベント情報をお届けするメールアドレス登録者数も、オンライン配信を始める前の約400から、約1,300に拡大した。</p>	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<p>・現在の情報の受け手は、高齢者層が中心である。今後、人々の交流を促進するためには、若年層の取り込むなど、島根の歴史ファンを新規開拓する必要がある。</p>
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<p>・若年層の主な情報入手手段はWEBであるが、現在のホームページには魅力がなく、検索が容易でない。</p> <p>・歴史に詳しくはないが、興味があるという初心者向けのコンテンツが不足している。</p>
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<p>・島根の歴史文化に関する様々な情報について、一覧できるポータルサイトを作成する。</p> <p>・気軽に閲覧できるような短編動画を制作・配信し、FacebookなどSNSとも連動させ、効果的な発信となるよう工夫する。</p> <p>・オンラインシンポジウムについては、来訪動機に繋がるような現地映像を組み込み、幅広い層に受け入れられる内容に作り込んで配信する。</p>